

# 一本杉 通信

volume 6

「雪あかり」に参加し、  
今年は10回目を迎えた記  
念事業。  
今回のテーマは「亥」。  
地域のご協力により、亥  
の雪像設置や、いつもよ  
り多くのミニ鎌倉で周辺  
を明るくし、見学スペー  
スを広くしたり、新たに  
駐車場を設置するなど、  
気軽に見学できる環境づ  
くりを努めました。



雪あかり 2019 和賀蛭子森公民館「実行委員会」  
『亥』

みなさん  
お元気ですか？



実行委員会  
委員長 高橋 久雄

本当に本当の平成最後の情報誌第6号の発行となりました。

さて、今季は2月後半の降雪もなく過ぎてしやすい日々を過ごし、例年よりも早い春の訪れを喜ばしく感じておりました。

さて、今回の情報誌は各地区で作った雪あかりを掲載しております。

はじまった当初は、小規模であった雪あかりも、現在では、多くの地区民の協力のもとアイデアに溢れた規模も大きい作品となっておりです。『作る側も楽しく、見る人には喜んでもらいたい。』そんな意識の変化を感じているところです。各地区のすばらしい力作ぜひご覧ください。

# 各地区からのおたより

## 雪あかり二〇一九

今年は開催2日前に雨、前日に大雪で大変でした！

### 継続は力なり

### 世代間交流の絆

今年も当地区では、町を挙げての冬最大のイベントである「雪あかり」に参加しま

した。公民館運営委員（12名）を軸に、ここ数年続けている「シンプルイズベスト」をコンセプトとして、下の深澤班から上の松川班までの、県道添い歩道側の雪壁約2.

なる蝋燭を瓶等で保護し、雪穴に入れて準備完了。（蝋燭の数、約500個！）

作業で一汗を流したお昼には、これまた恒例となつている、豚汁とおにぎりを参加者全員で（老若男女40名程）食しながら世代間の交流を図りつつ、次年度への夢をも語り合う憩いのひと時をすごしました。

夕刻、5時30分、町の雪あかり点灯の合図とともに、各班一斉に灯りを入れます。並行して、各家庭でもそれぞれ思い思いの雪あかりを作り楽しんでいきます。

沢内夢街道と銘打つての雪あかりに、行き交う車窓から『ムードいいよ！』との掛け声があるなど、心に和らぎを感じる一夜でもあったのでした。

## 猿橋



5キロメートルに雪あかりを設置する計画です。雪灯籠を模した雪穴を5メートル間隔で掘り進め、併せて灯籠に灯りと

### ろうそくヨコ入れ式 雪あかりの作り方

#### STEP.1

バケツに水で濡らしながら雪を入れ、固める。

- 必要なもの
- ・バケツ
  - ・ろうソク・雪
  - ・水・冬の寒さ

#### STEP.2

固まったらバケツをひっくり返して取り出す。

#### STEP.3

シャベルなどで横に穴を開ける。

#### STEP.4

ろうソクを入れて完成！いろいろアレンジしてみるのも楽しい。

## 泉 沢

今年の雪あかりのタイトル名は、「田  
四中雪の回廊2019」です。「田四中」  
は、田中斑・四谷班・中島班の頭文字か  
ら取ったものです。360本のロウソク  
を点灯して回廊にしました。雪壁に「松竹梅」を「田  
四中」の文字をバックにあしらいました。



■泉沢地区…田四中(たよんちゅう)雪あかり実行委員会『田四中雪の回廊2019』

正月だけでなく、こ  
の日も帰省していただ  
いて、お手伝いいただ  
けませんか？反省会は  
会費500円で飲み放  
題ですよ。

.....

泉沢一本杉の会は  
代表を中心に、若手へ  
世代交代しました。雪  
あかりづくりは高齢  
メンバーも、新たな発  
想を支援しながら参加して、  
若い世代へ引き継ぎました。  
点火式には各自好みのも  
のを持参し、班内女性陣の差  
し入れもあって、地区民の絆  
を深める機会にもなりまし  
た。



■泉沢地区…一本杉の会『おらほの夢あかり』

## 弁 天

今年は、蛭山橋下の河川敷に会場を移  
し、蛭山と七内合同での取り組みとなり  
ました。作業には地区民、老若男女30人  
が集まり和気あいあいの作業でした。昼  
食は炊き出し訓練と称して婦人会の協力により、  
豚汁に舌鼓。

無理と思われた取り組みも仕上げに欄干の除雪、点  
灯を行い、5時15分に完成。出来栄えに歓声が上が  
りました。

団体登録が遅くチラシに載らなかったのが反省点  
でしたが、地区全体の取り組みに繋がったことに、参  
加した方々それぞれから達成感が感じられました。



■弁天地区…『フェニックス(不死鳥)』

## 首都圏の人たちと交流

東京の旅行会社が企画した「雪あかりツアー」で来た、首都圏の高齢者8人と長瀬野の高齢者12人が2月8日夕方交流を深めました。

郷土料理として、凍大根の煮込み、ワラビの入った納豆汁、一本漬、炊き込みご飯などの食事を通じた交流は首都圏の参加者に「心温まる時間」をプレゼント出来ました。

民謡「沢内甚句」の唄と踊りは、田舎らしい良さを感じてもらったようです。今度は山菜の時期に来たいと熱望されました。



スージ

# あかり」

た 3 日間

文：高橋典成（長瀬野）



## 地区一丸 雪像作り

9日は朝から地区住民参加での、巨大スベリ台と今年の干支をアレンジした雪像づくりを一日がかりで行いました。

毎年来ている盛岡市の「みどり学園」の子供たち15人と職員7人、それをサポートする岩手県立大学の学生、盛岡のNPO法人銀河ネットの方々7名も地区住民と雪像づくりに汗を流しました。





## 巨大スベリ台で歓声

巨大スベリ台をソリで下るときはスピードが増しスリル感を味わえ、大人気。何回も何回も滑るので雪が固まり、そうになると益々スピード出てくるので楽しそうでした。

次の日も朝6時ごろから人が集まり、更に10日には「ことりさわ学園」の子どもたち15人も参加し、いつもは静かな長瀬野地区は歓声に包まれました。

## 特集へ

# 長瀬野区「雪」 交流を深め

## 絆の灯り

暗やみの中でロウソクが灯る幻想的な「雪あかり」、巨大スベリ台に興じる子どもたちの歓声、郷土食・民謡での都市住民との交流、色んな体験を行った「雪あかり」事業でした。



# 猿橋学区のお店

店主 猿橋 重一さん(72)

4人で猿橋商店を運営している。  
祖母が創業者。



## 猿橋商店

■営業時間 AM7:30 ~ PM8:00 年中無休  
■TEL : 0197-85-2066 ■取扱 : 魚、肉、野菜、酒、仕出しなど

る重一さんに受け継がれる事となり、昭和63年11月に今の場所に移転した。

仕出しや、折詰め、お弁当なども、予算や希望に合わせて相談に乗ってくれる。二階は広い宴会場で、80人くらいの宴会が可能であり、地域のコミュニティの場所としても幅広い年代に活用されている。

現在の商品は、食料品、日用品、お酒、嗜好品。さらに宅配便も各社扱っている。その中で一番のお勧めは、「おにぎり」。もちろんお米そのものが美味しいのだが、ここのおにぎりは、ひと味違う。塩加減が絶妙で、お米とお米の間の空気間というか、一粒一粒の存在感があり、美味しい。コンビニの機械で握ったおにぎりと比べると格段の差がある。だまされたと思っ

て一度、ご賞味あれ。  
次に人気なのがしんの「すし漬け」。これも年月で培った

技がなければ、中々美味しい味には出来ないものである。ぜひこの「すし漬け」も味わってみてほしい。

年々売り上げは落ちてきているが、長年に渡り、地元の人たちに支えられてきた。今後も出る限り続けて行きたいと、重一さんは語ってくれた。これからも美味しい食べ物を沢山、作り続けてほしいと願うばかりだ。



イチオシのおにぎりとおすし漬け。いなり寿司も美味。

創立は、祖母が33歳の時。昭和初めに、屋号となつて「はんばい」の名称で、今の道路向かいに初代店舗が開業した。当時は、松川鉦山の作業員の食料や、日用品、嗜好品の販売を主にやっていたのではないかと思われる。「つ

け」で購入して給料日に支払うような形が多かったそう。昭和30年代、40年代には、猿橋小学校の先生を中心に宿泊も行った。

店は二代目、重一さんの父である、故・十郎さんに受け継がれ、さらにその後、現店主であ

# 猿橋学区のご長寿

泉沢在住

【大正琴の弾き手】

高橋 定雄さん (99)

大正9年生まれ。旧沢内村の職員を退職後は、大正琴の代表として20数年活躍。現在は、週2回のデイサービスに通うことが何よりの楽しみだそう。

大正9年3月30日、こ

の泉沢に5人兄弟の次男として生れました。

若い頃は、旧沢内村役場の職員として活躍しました。とても几帳面な性格の方で、自伝史を大学ノート2冊にぎっしりとまとめています。

ノートの始まりは、昭和元年から。内容は、6歳から現在にいたるまでの年毎に、歴史的な出来事や、時事問題、自



分の生い立ちなど写真や、新聞の切り抜きなどを貼って詳しくまとめています。兵士として戦地を経験したため、その時の戦友たちとの貴重な写真も数々、大事にそのノートに貼られています。役場勤めを退職してからは、庭作り、大正琴の勉強会や演奏会、ハーモニカ演奏、絵描き、

彫刻など、多くの趣味で活躍してきました。

特に大正琴は、在職中から続けていて、昭和58年3月には教育委員会の社会教育活動として「大正琴みちのく同好会沢内教室」（会員23名、代表 高橋定雄）を発足。以来23年間もの長きにわたって活動を続けてきました。県内はもとより、宮城県や秋田県でも演奏しており、町内の、老人ホームや保育所などの福祉施設にも演奏に出かけます。

『自分たちは、老人社会に貢献しているという生き甲斐と誇りを感じながら大正琴の演奏をし、旧沢内村の文化発展に貢献している。』と話してくれました。

このような素晴らしい実績が、定雄さんのご長寿の源になっっているにちがいない、今後とも元気に活躍して頂きたい限りです。



昭和60年、NHKに出演。沢内甚句を披露。



お弾き初め会にて。

## 梅壇保育所に行ってきました！

冬を元気に楽しむ子どもたちの姿をご紹介します！

春の日差しの中、子供達は元気いっぱい、カタユキの滑り台で「そりこ」で遊んでいました！

4月からピカピカの一年生は6人。入学が待ち遠しいです！！



※「そりこ」とは…農業用肥料袋を二つ折りにし、その輪の部分にヒモを通し、そりに見立てた手作りの遊び道具。

## 出身者からのお便り

本誌を読まれた出身者の方からの声を一部ご紹介します。

「ページを開いた瞬間に、忘れかけていた思い出が飛び込んできました」

長瀬野出身 藤原史明さん

ふるさと交流実行委員の皆様、ご苦労様です。

岩手を離れて沖縄での生活30年になり、10年以上里帰りしていません。そんな中にふるさとを感じる地域情報誌が送られてきたのには、びっくりしました。特に第2号誌はとても懐かしかったです。

ページを開いた瞬間に、忘れかけていた思い出が飛び込んできました。私は長瀬野地区で…八年橋が水害で流された時…夏休みの川遊び…カジカ獲り…。次から次と色々な思い出が蘇ってきて懐かしく思います。今すぐに里帰りをしたい気持ちでいっぱいになります。すてきな情報誌ありがとうございます。そしてこれからも頑張ってください。

長瀬野小学校分校から猿橋小学校木造校舎廃高～新校舎までの写真が見たくなりました。統合した時は、小学4年生でした。

本情報誌は、地域の出身者や所縁のある方にお送りしています。また、届いてない方がおりましたら、ご住所をお知らせください。バックナンバー含め、お送りいたします！